

暴風雪の被害に遭わないために

暴風雪による被害は、晴天から急に風雪が強まる天候の変化が起きたときに多く発生しています。

暴風雪が予想されているときは、無理をせずに家で過ごすなど外出を避けましょう。

「外出しないこと」が身の安全を守るための最善の対策です。

外出しているときに悪天が予想されると知ったときは、今の天気が良くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを事前に十分確認しましょう。

気象情報から「数年に一度の猛ふぶき」、「外出は控えてください」といった情報が発表されたら、厳重に警戒してください。

車で外出するときに気をつけること

1 携帯電話を忘れずに所持しましょう。

2 万が一に備えて、飲料水や非常食を用意しましょう。

3 やむを得ず外出をしなければならない場合には、道路状況に応じた無理のない運転を心がけましょう。

4 立ち往生する可能性もあるので、防寒着・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープなどを車に用意とともに、燃料を確認しておきましょう。

5 運転をしていて、地吹雪などにより身の危険を感じたら、道の駅駐車場・コンビニエンスストア・ガソリンスタンドなどで天候の回復を待ちましょう。

6 大雪や吹きだまりなどで車が立ち往生したときは、JAFなどのロードサービスや近くの人家などに必ず救助を依頼してください。また、ハザードランプの点灯

や停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。

7 避難できる場所や近くに人家がない場合は、消防(119番)や警察(110番)に連絡して、車の中で救助に備えてください。

8 車が雪に埋まったときは、エンジンを切りましょう。マフラーが雪に埋まると排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。車には防寒着や毛布等を備えておきエンジン停止時に暖をとるようにしてください。

9 車が雪に埋まったときに防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときは、窓を開けて換気し、こまめにマフラーまわりを除雪してください。

日常から暴風雪に備える

家の中で安全に過ごすために

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないように注意しましょう。



ポータブルストーブ



非常食・飲料水



懐中電灯

やむを得ず車で外出する時には

天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意とともに、十分に燃料があることを確認しましょう。



防寒着



長靴



スコップ



スノーヘルパー

車が立ち往生したとき

立ち往生をしてしまった時は、後続車から追突されないようにしてください。

- ハザードランプを点滅、停止表示板を置く
- JAFなどのロードサービス、近くの人家、警察・消防に救助を依頼

緊急時の連絡先

車の故障・レッカーカー移動

- JAFロードサービス救援コール

※会員、非会員問いません。

0570-00-8139

または#8139(短縮ダイヤル)

車の事故、人命救助の要請など

- 警察 110 ●消防 119

道路情報

- 日本道路交通情報センター

050-3369-6601

または#8011(短縮ダイヤル)

除雪のこんなときが危険

雪に関する死亡事故の9割以上は除雪に関係した事故によるものです。

除雪による事故を防ぐチェックポイント

雪かきをする

- 準備運動・整理運動をしっかりと
- 滑りにくい防寒靴も含めて服装は万全に
- 腕の力だけに頼るのではなく体全体を使う
- 雪を投げ出すときは体をひねりすぎない
- もしものために2人以上で作業
- 屋根からの落雪など周辺状況を十分把握

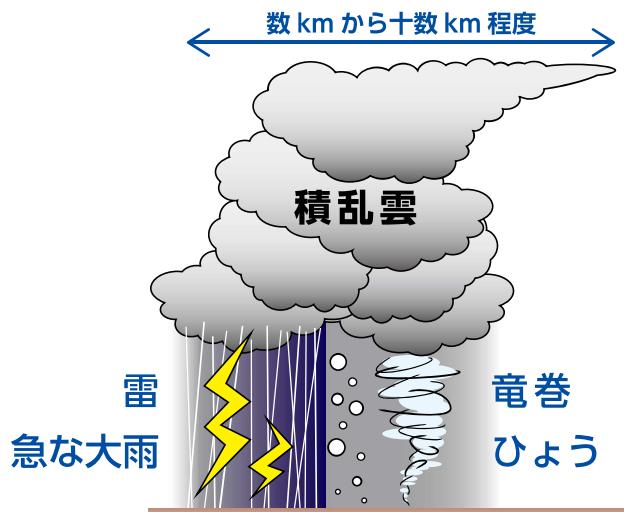
除雪機を使う

- 除雪機を使うときは周りの人々に注意
- 雪詰まりはエンジンを停止してから雪かき棒で作業して手を入れない
- 後進には十分注意
- エンジンをかけたまま離れない

屋根の雪下ろしをする

- 低い屋根の雪下ろしでも油断は禁物
- ヘルメット、命綱、安全帯など装備は万全に
- アンカーをしっかりと固定し命綱を忘れずに
- はしごは横ずれしないよう真っ直ぐに立て支えてもらう
- 屋根の下に人がいないことを確認
- 屋根に10cm程度の雪を残して、屋根材を露出させない

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生することがあります。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。



積乱雲が近づくサイン

真っ黒い雲が近づいてきた

急に暗くなった

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

大粒の雨やひょうが降り出した

「竜巻」が間近に迫つたら…いろいろな物が猛スピードで飛んできます！

屋内では

- ・窓から離れる。
- ・窓やカーテンを閉める。
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- ・家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

屋外では

- ・頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする。
- ・物置や車庫・プレハブの中には入らない。
- ・シャッターを閉める。
- ・電柱や太い木には近づかない。

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。
このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。

飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。

ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。

気圧の変化で耳に異常を感じた。

「雷」から身を守るには…遠くで音がしたらすでに危険な状態です！

- ・グラウンドやゴルフ場、海の上などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険！
- ・電柱、鉄塔などの高い物体には近づかないように！
- ・高い木の近くは危険！2m以上は離れてください！
- ・姿勢は低く、持ち物は体より高くしないように！
- ・建物や車の中は比較的安全な空間。
- ・木造建築物の中では、電気機器や壁から1m以上離れれば更に安全。
- ・雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう。



竜巻注意情報 (気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



レーダー・ナウキャスト (気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



地震対策 地震発生！そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

災害への備え

洪水・土砂

雪害・地震

ハザードマップ

避難所一覧



緊急地震速報

1~
2分

3分

5分

10分
数時間
3日

揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- まず、手近な座布団などで頭を保護するなどの避難行動をとる
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱するため靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等の倒壊に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

- 隣近所で助け合う 要配慮者※の安全確保

- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか

出火防止
初期消火

- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく

- 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意



ラジオなどで正しい情報を



- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時には車は絶対に使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消防活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●こわれた家に入らない
- 水、食料は蓄えているものでまかなう(3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく)

屋内にいた場合

家中

- ・緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、すばやく身の安全を確保する。
- ・火の使用中に揺れを感じたら、揺れが収まってからあわてずに火の始末をする(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ・要配慮者※の安全を確保する。裸足で歩き回らない(ガラスの破片に注意!)。

デパート・スーパー

- ・カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ・ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ・避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- ・カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてず冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

路上

- ・その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ・近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ・ブロック塀や自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

電車などの車内

- ・つり革や手すりに両手でしっかりと握る。
- ・途中で止まても、非常口を開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ・乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

海岸付近

- ・高台へ避難し、津波情報をよく聞く。注意報や警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

車を運転中

- ・ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ・揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カラジオで情報を収集する。
- ・避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、確認しましょう。

1

- 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。
無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

**2**

- 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄りなどは逃げ遅れる可能性がある。

**3**

- 家具の転倒を防ぐ
家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。
また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。

**4**

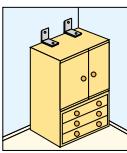
- 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。
また、玄関にいろいろと物を置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

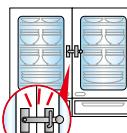
タンス・本棚

- L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかりと連結しておく。



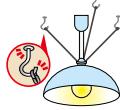
食器棚

- L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



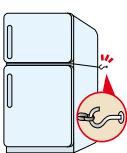
照明

- チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



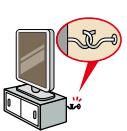
冷蔵庫

- 2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



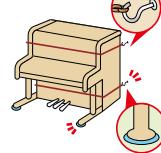
テレビ

- できるだけ低い位置に固定して置く（家具の上はさける）。



ピアノ

- 本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。
脚には、すべり止めをつける。



地震の震度表

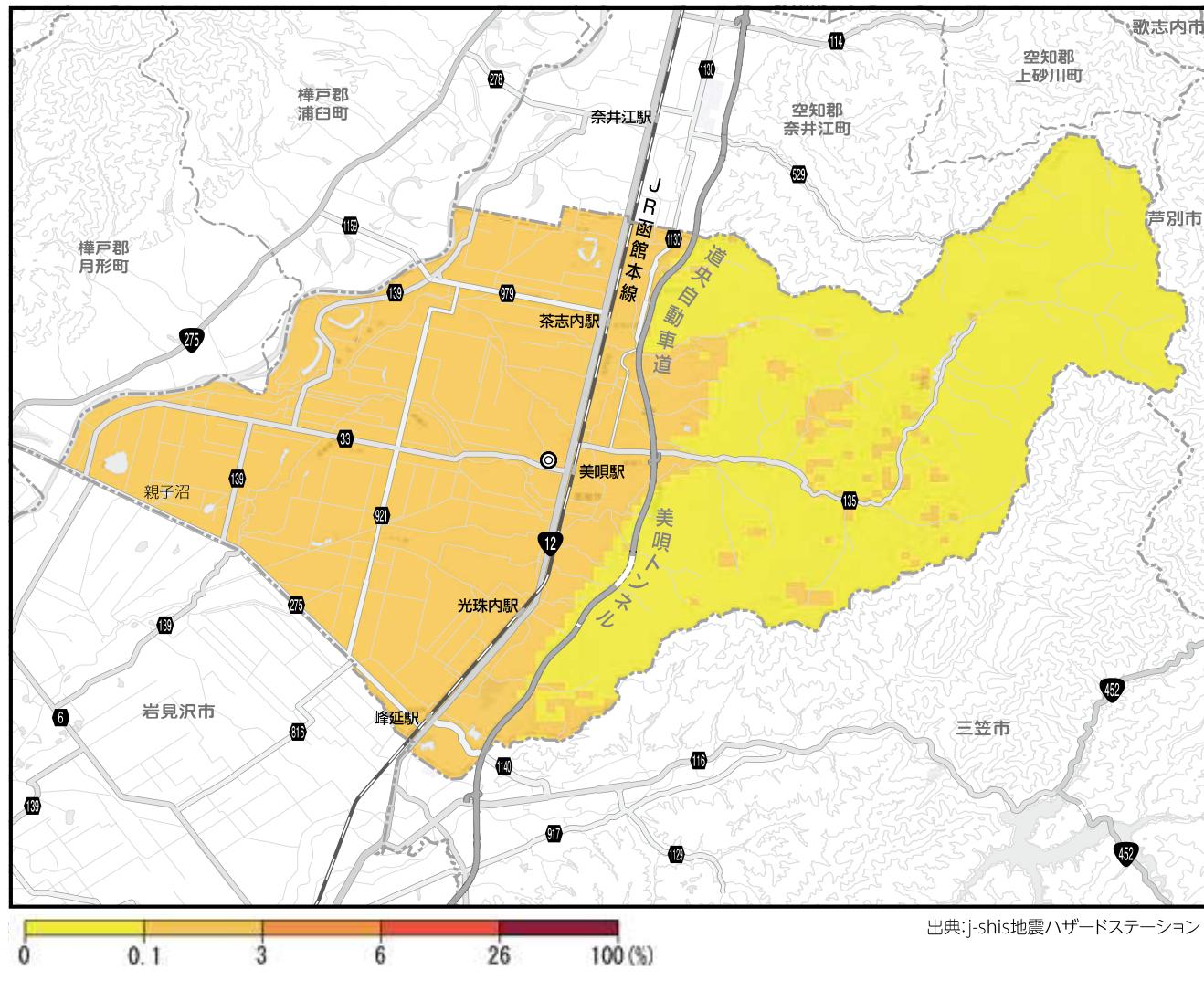
震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
4	<ul style="list-style-type: none"> 歩いている人のほとんどが揺れを感じる。 眠っている人のほとんどが目を覚ます。 	<ul style="list-style-type: none"> 電灯などが大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。 すわりの悪い置物が倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 電線が大きく揺れる。 自動車を運転していて揺れに気づく人がいる。
5弱	<ul style="list-style-type: none"> 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電灯などの吊り下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 すわりの悪い置物の大半が倒れる。 固定していない家具が移動することがあり、不安定な物は倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。 電柱が揺れるのがわかる。 道路に被害が生じることがある。
5強	<ul style="list-style-type: none"> 大半の人が物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 棚にある食器類や書棚の本で落ちる物がある。 テレビが台から落ちることがある。 固定していない家具が倒れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 窓ガラスが割れて落ちることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。 据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。 自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定していない家具の大半が移動し、倒れる物がある。 ドアが開かなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが出来ず、はわないと動くことが出来ない。 揺れに翻弄され、動くことも出来ず、飛ばされることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。 補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7		<ul style="list-style-type: none"> 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。 補強しているブロック塀も破損する物がある。

あなたの地域の震度を確認しておきましょう。

地震が発生したときの住宅被害は、住んでいる地域の「震度」と「住宅の耐震強度」によって異なります。あらかじめ、自分の住んでいる地域に想定される震度を知っておくことは、防災意識としてとても大切なことです。

ここで紹介している『揺れやすさマップ』で、まずはあなたがお住いの地域の“揺れやすさ”を把握しておきましょう。

■美唄市における30年以内に震度6強以上の揺れに見舞われる確率の分布図■



■木造住宅の耐震診断■

①木造住宅の耐震診断及び耐震改修の助成

●助成対象住宅

市内にある一戸建ての専用住宅・併用住宅

●助成額 耐震診断は上限 3万円 耐震改修は上限 30万円

②木造住宅対象無料耐震診断

●対象住宅

- 1) 昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工
- 2) 2 階建て以下、延べ床面積 500 m²
(約 150 坪)以下
- 3) 在来工法で建築され、申請者が所有または居住している

大規模地震発生！そんなときどうする

あたり前のように使っている電気が、突然使えなくなったら…
夜間の場合、安全に避難することや情報を入手することが困難になります。

北海道胆振東部地震による停電戸数は最大で約295戸

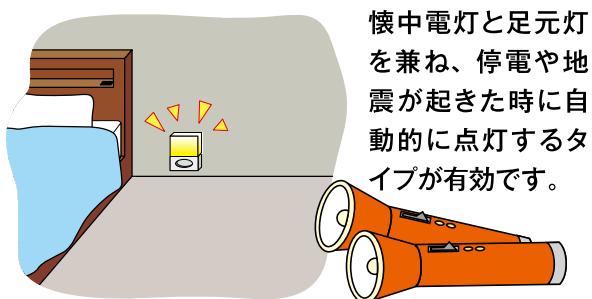
(内閣府：平成30年北海道胆振東部地震に係る被害状況等について)

身の安全を確保するために、地震発生時の停電に備えましょう。

備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

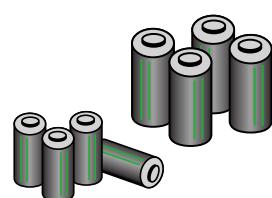
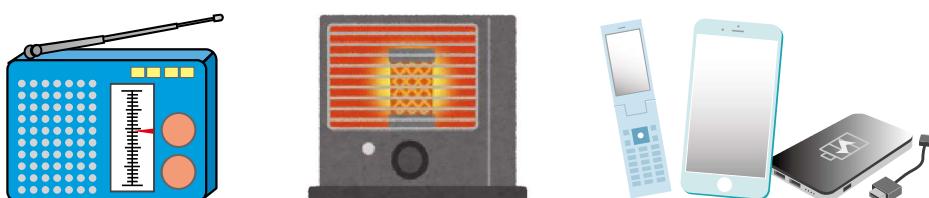
→ リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。



備え② 災害情報・暖房を確保するためには

インターネットや携帯電話などを利用できないおそれがあり、情報を得ることが困難になります。

→ ラジオや予備の電池を常備しておきましょう。



※手動で充電できるラジオもあります。

【地震による電気火災の発生に注意!】

地震による火災の過半数は電気が原因であることをご存じでしょうか。

東日本大震災の本震による火災で、原因が特定されたもの108件のうち58件が電気関係の出火でした。

(2011年東日本大震災火災調査報告書より)

地震発生後、避難のために自宅を離れるときは、停電時であってもブレーカーを切りましょう。不在中に電気が復旧したとしても、電気ストーブやヒーターなどの上に落下した布などからの出火を防ぐことができます。

また、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合には、一定以上の揺れが発生した際に電気を自動的に止める感震ブレーカーの設置が有効です。なお、感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。